



かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

令和6年8月27日

地域版

8・9月号



感じる心たいせつに みんなの心、みとめあい せいっぱい やってみよう やりとげよう

子どもの成熟を見つめて

校長 小林 京子

毎年、夏休みが明け、久しぶりに子どもたちの顔を見ると、私は、子どもたちの顔がこれまでと「何か」違うように感じていました。それは、身長が伸びた、日に焼けたというような見た目ではっきりとわかるものではない「何か」なのです。

ある年の夏休みに読んでいた本(内田樹 著 『複雑化の教育論』)に正にこの「何か」を言い当てた表現がありました。「教育の目的は子どもたちの成熟を支援することであり、成熟とは複雑化すること。複雑化は計測不能であり、ものさしで測ることができる量的な変化ではありません。複雑化するときには起きているのは、『表情の変化』『手触りの変化』『雰囲気の変化』というようなものなのです。表情が深くなる、声の厚みが変わる、身動きの分節が変わる、というようなことです。」そうか、私の考えていた「何か」とは、きっと「人として成熟(複雑化)した」ということだったのです。

夏休みに子どもたちは、何をしたり聞いたり、また、感じたりしたのでしょうか。ご家庭での30数日間には、学校とは違ういろいろな出来事があったことと思います。友達、親せきや家族と思う存分遊んだり、宿題や勉強を一生懸命にしたり、本を夢中になって読んだり、家族の一員として手伝いをしたり、習い事に精を出したり…。また、今年はパリのオリンピックや高校野球とスポーツのテレビ観戦を通しての学びもあったかもしれません。それは、勝つことの困難さ、強さ、努力、相手や仲間への配慮、思いやり。子どもたちは、この夏休みの間にも、〇年生の夏にしかできないかけがえのない経験から自分の中に取り込んでいるものがあり、毎日、見ている保護者の方々には、気が付きにくいことかもしれませんが「成熟した(複雑化した)」に違いありません。

子どもたちが学校に戻ってきました。

私たち教職員は、本校の子どもたちを、常々「よく来たね!」「学校に来ただけで、100点」と迎えています。4月から7月まで、本校の子どもたちは、暑さや雨にも負けず、本当に頑張って登校してきました。ご家庭からの応援のおかげと感じています。夏休み明けの朝会では、改めて「朝食をしっかり食べて」「朝の排便を済ませて」「学習用具を整えて(鉛筆をけずって)」「登校班と交通ルールを守って」の声掛けをしました。健康な体と心が育つためには、基本的な生活習慣が最も大事だからです。

学校は、全ての子どもたちの居場所であり、居心地のよい場所でなければなりません。そのためには、私たち大人がまず、AI やものさしで測ることができない、子どもたちの中で起きている変化に気づき、『表情の変化』『手触りの変化』『雰囲気の変化』をしっかり見取り、子どもたちの成熟を支えていきたいと思えます。また、学校は、子どもたち同士がふれあい、学び合う場、そこから、子どもたちの成熟を支援する場です。それに尽くされるといっても過言ではありません。引き続き、私たち教職員も毎日、子どもたちが機嫌よく学校に来ることを応援します。秋からも、たくさんの学びや体験ができるように準備万端です。

子どもたちは、一段と成熟していくでしょう。